

音楽サービ

創造学科が行く！

楽器フェア

取材レポート



東京ビッグサイトで行われた楽器の展示会、楽器フェアに行ってきました。音楽サービス創造学科ならではの目線で見た楽器フェアをお楽しみください！

「鍵盤ハーモニカ」

誰もが小学生の授業で触れたことのある「鍵盤ハーモニカ」ですが、学校での授業が終わると演奏する機会はめっきり無くなってはいませんか？

決して授業で演奏して終わりになんて楽器ではないですよ。

音楽サービス創造学科一年

浅井 勇磨

岩清水 祐慈

鍵盤ハーモニカは口から吹き込んだ息で発音するため、音の出し方が無限大なんです！

特にYAMAHAから発売されている「大人のピアノニカ」はフル3オクターブもの音を出すことができ、デザインも小学校で使用していた物とはガラリと変化しています。カラーバリエーションは、黒とブラウンで落ち着いた感じになっていました。

本科の授業では、**鍵盤ハーモニカ**のことも学ぶので、かなり興味を持つことが出来ました！



ズバリ！

音楽サービス創造学科目線

「メーカーと商社の違い！」

本科では、ビジネスや小売販売についても学びます。商業的な視点からもブースを見る事が出来ました。今回は、アコースティックギターを扱っているメーカー（Taylor）と商社（キクタニミュージック）を『どのようなアピールをしていたか』で比べました。まず、Taylorは、メーカーとしての出展なので、様々なモデルの自社ギターが展示されており、実際に触って弾き比べたり、構造の違いを見比べてたりできるようになっていました。

一方、キクタニミュージックは、自社が取り扱っているギターだけでなく、ギター弦やウクレレも展示していました。さらに、店員さんの対応にも大きな違いがありました。

Taylorは、楽器の仕組みやモデルごとのコンセプトの違いなど、ビルダー目線でもとても細かく説明してくれました。やはり『メーカー』といったところでしょうか。一方、キクタニミュージックは、弾き味や使っているアコースティックなど、プレイヤー目線での説明が多く、雑誌の表紙風の写真を撮ってくれるという企画も行って、商業的な側面がより強く出ていました。

SNSも有効活用！



楽器を作ったり直したりするだけでなく、海外から買い付けた**卸売**をしたりする**仕事**も勉強する本科らしい**目線**での**比較**になったのではないのでしょうか。

ここが聞きたい !! 学生たちへの

音楽サービスクラス創造学科 一年
芳之内 拓朗 君(愛媛県出身)

★なぜ、レコーダーを買われたのですか？

☆クラリネットの録音をしたいと考え「ZOOM」の方に相談し、レコーダーを購入しました。

★入学してから楽器関連機器に対する考え方や見方に変化はありましたか？

☆はい。今までだったら、録音できる音の性質等を説明してもらっても「へー、何か凄い機能なんだろうな」程度の感想だったと思うのですが、**アートプロデュースの授業で、音に関して学び、『あーこの部分の音を上手に拾えるから良いレコーダーだ！』というように、今まで何となく聞いていた話や説明**

を理解もできるようになってきました。



音楽サービスクラス創造学科 一年
朴 承均 君(韓国出身)

★一番気になったブースはどこですか？

☆KORGのブースです。シンセサイザーが沢山あり、時間を忘れて試奏しました。さらに、デモ演奏もあり、興味をひかれました。
★本科で学んでいてよかった、と思うことを教えてください。

☆今までは、自分の興味がある鍵盤楽器やDMX関連のものしか見ようとしていませんでしたが、楽器フェアでは、ギターや管楽器のブースも楽しむことが出来ました。演奏授業でのトランペット演奏や、ギターの木材の勉強をしていたので、店員

さんの話や書いてあるスペックが学んだ知識と繋がり、成長を実感しました。



学んだこと

様々なジャンルを学ぶ本科にとって、これだけ多くの種類の楽器や周辺機器に触れることが出来るのは非常に貴重な体験でした。入学してから初めて知った楽器、あまり興味を持っていなかった楽器、あまり興味を持っていなかった楽器、周辺機器等、実物を見るとすぐに興味を持ち、試奏してみたり、自ら調べて学んでみたいと思うことが多くありました。音楽・楽器を総合的に学んでいるからこそ、新しい発見や知識を深めることができました。

楽器フェアとは??

国内最大規模の楽器イベント「楽器フェア」は、日本楽器フェア協会が主催しています。今年は『今こそ楽器体験！ Let's enjoy MUSIC!!』をキャッチフレーズに、5万人の動員を目指して、人気イベントなど様々な注目企画が東京ビッグサイトで10/19-21の3日間、行われました。アコースティックドラムの試奏イベントやシンセサイザー、電子楽器ファン向けの「シンセフェス」、12の楽器やバンド体験ができる「楽器体験広場」など、楽器人口拡大に向けた注目のフェアとなりました。

